

5月2日 学院福音化、第1課

5月の学院福音化第1課のメッセージです。出エジプト記23章14節から16節を先に読みます。

「年に三度、わたしのために祭りを行わなければならない。種なしパンの祭りを守らなければならぬ。わたしが命じたおり、アビブの月の定められた時に、七日間、種なしパンを食べなければならない。それは、その月にあなたがエジプトを出たからである。何も持たずにわたしの前に出てはならない。また、あなたが畑に種を蒔いて得た勤労の初穂を献げる刈り入れの祭りと、年の終わりに、あなたの勤労の実を畑から取り入れるときの収穫祭を行わなければならない。」

一課は、三つの祭りについての内容でした。それゆえ、今日はメッセージというよりは、聖書の内容を学ぶ時間にします。もちろん、すべて暗記したり、覚える必要はありません。

イスラエル（旧約）の7大祭り	
1. 過越の祭り（レビ 23:5）	
2. 種なしパンの祭り（レビ 23:6）	
3. 刈り入れの祭り（出 23:16） 初穂の祭り（レビ 23:10）	
4. 7週の祭り（レビ 23:15-16） 五旬節	
5. ラッパの祭り（レビ 23:24）	
6. 賞罪の日（レビ 23:27）	
7. 収穫祭（出 23:16） 仮庵の祭り（レビ 23:34）	

まず、三つの祭りを見る前に、旧約のイスラエルが守った七つの祭りがあります。先ほど見た出エジプト記23章には三大祭りが出ていますが、レビ記23章を見ると、そこに7大祭りについて詳しく記録されています。

1つ目が「過越の祭り」。2つ目が「種なしパンの祭り」です。3つ目は「刈り入れの祭り」です。今日読んだ本文では、「刈り入れの祭り」と言わせていて、レビ記では、「初穂の祭り」という単語を使っています。3つ目が「7週の祭り」とも言いますが、私たちは「麦秋節」とも言います。麦を刈り入れる祭りです。また、「五旬節」とも言います。五旬節とは、後につけられた名前です。5つ目は「ラッパの祭り」です。6つ目が、「贖罪の日」。最後の7つ目が「仮庵の祭り」と言います。「収穫祭」とも呼びます。いろいろな名前があります。

今日は「三つの祭り」を見るのですが、7つを三つに分けます。表をこのように作ってみました。

1. 過越の祭り	
2. 種なしパンの祭り	すぎこしあい 過越祭
3. 刈り入れの祭り 初穂の祭り	
4. 7週の祭り 五旬節	ごじゅんせつ 五旬節
5. ラッパの祭り	
6. 賞罪の日	かりいおさい 仮庵祭
7. 収穫祭 仮庵の祭り	

このように祭りがありますが、三つにまとめると、最初の3つ、過越の祭り、種なしパンの祭り、初穂の祭りを一つにまとめて「過越祭」または、「種なしパンの祭り」と呼ぶことができます。最初の読んだ出エジプト記の箇所では、「種なしパンの祭り」と言わせていました。過越祭と言っても良くて、種なしパンの祭りと言っても良くて、同じ意味です。

その次の7週の祭りを五旬節だと私たちは言っています。

の二残りの3つは、ラッパの祭り、贖罪の日、収穫祭をまとめて、「収穫祭」「仮庵祭」と言うことができます。

では、このように、三つに分けることになるのですが、ひとまずユダヤ人が使っていた暦（カレンダー）によって、この祭りの日がどうなるかというと、

1月14日が過越の祭り、その翌日からの7日間に種なしパンの祭りで過ごして、そして、その種なしパンの祭りの中間に安息日が入っています。その安息日の次の日を、安息日の次の初日を初穂の祭りだと定めて1月16日になります。

そして、その日から始めて50日目になる日を、3月6日になりますが、その日を7週の祭りと呼んでいます。それで、五旬節と呼ぶのは、漢字から始まったことばで、5日を10回するということで、五旬節と言われています。
7月1日から2日の二日間はラッパの祭りをします。そして、7月10日が贖罪の日です。そして、7月15日から21日、また一週間、仮庵の祭りとして進行されます。

		ユダヤ暦
1. 過越の祭り		1/4
2. 種なしパンの祭り	すぎこしあい 過越祭	1/15-21
3. 刈り入れの祭り 初穂の祭り		1/16
4. 7週の祭り 五旬節	ごじゅんせつ 五旬節	3/6
5. ラッパの祭り		7/1-2
6. 賞罪の日	かりいおさい 仮庵祭	7/10
7. 収穫祭 仮庵の祭り		7/15-21

		ユダヤ暦 れき	たいよう暦 太陽暦
1. 過越の祭り	すぎこしあい 過越祭	1/4	3-4月 春
2. 種なしパンの祭り		1/15-21	
3. 刈り入れの祭り 初穂の祭り		1/16	
4. 7週の祭り 五旬節	ごじゅんせつ	3/6	5-6月 はる 春の終わり、 なつ 夏の始まり
5. ラッパの祭り	かりいおさい 仮庵祭	7/1-2	9-10月 秋
6. 賧罪の日		7/10	
7. 収穫祭 仮庵の祭り		7/15-21	

今、私たちが使っている太陽暦で見るときは、上の三つの祭りは3月で4月で春に属する祭りです。3つの祭りが、春にあるということです。

その次に五旬節が、春が終わる頃、夏が始まる前のことです。それゆえ、七週の祭り、五旬節は、夏の祭りだと言います。

その後に、ラッパの祭り、贖罪の日、仮庵の祭りは9月から10月、秋に行われます。

春、夏、秋、最後の冬がないでしょう。冬は、安息を意味するので、完成された安息の中に入ることを意味して、祭りとして出でていません。

		ユダヤ暦 れき	たいよう暦 太陽暦	背景
1. 過越の祭り	すぎこしあい 過越祭	1/4	3-4月 春	子羊の血、 解放
2. 種なしパンの祭り		1/15-21		苦難、迅速
3. 刈り入れの祭り 初穂の祭り		1/16		収穫の初穂
4. 7週の祭り 五旬節	ごじゅんせつ	3/6	5-6月 春の終わり、 夏の始まり	50日
5. ラッパの祭り	かりいおさい 仮庵祭	7/1-2	9-10月 秋	角笛、宣布
6. 賧罪の日		7/10		赦し
7. 収穫祭 仮庵の祭り		7/15-21		最後の収穫

では、この祭りの背景について説明しましょう。

よく知っているように、イスラエルがエジプトの奴隸だった時でした。モーセを選ばれて、エジプトに10のわざわいを下されます。最後の10回目のわざわいが長子の死でした。そのとき、子羊の血を門柱と鴨居に塗った家は、死の御使いが過ぎ越すようになって、塗らなかつた家は、人をはじめとして、すべての獣まで、すべての長子が死ぬようになりました。エジプトのすべての家庭の長男は皆死にました。イスラエルの人々はみな生きたのか、そうでもなかったでしょう。血を塗らなかつた人もいたでしょう。知らせを聞くことができなかつたとか、聞いても冗談と思ったとかいう人もいたでしょう。このように、過越祭で血を塗つた事件によって、イスラエルは解放されるようになりました。

その日からパン種を入れないパンを食べるようになつた。なぜそうしたのかというと、パンをパン種を入れてふくらませる時間がなかつたので、急いで、はやく作らなければならなかつたからです。そして、また、種なしパンが意味することが、もう一つ、苦難の意味もあります。あなたがたがエジプトの奴隸だったときから解放された、その苦難と困難の中から解放されたということを記念することでした。そして、迅速（すばやく）パンを作つて行かなければならぬので、迅速、その意味もあります。

では、その次の三つ目の初穂の祭りは、初めての収穫物の初穂の束を神様にささげるようになつた。これは、レビ記を見れば、荒野生活をしていたときに守つた祭りではなく、約束された地であるカナンに入つて、あなたがたはこの祭りを必ず守りなさい。そして、初めて刈り入れたその穀物の初穂の束は必ず神様にささげなさいと命令されました。

そして、7週の祭り、麦秋節、この時もこの期間に大麦を刈り入れたことをもつて、神様に感謝のささげ物を献げました。それゆえ、麦秋節とも言うのです。

その次に、ラッパの祭りは、この二日間、すべてのイスラエルが聞くようにラッパを鳴り響かせました。イスラエルのすべての人々が聞くようにしました。神様のみことばを、そのとき、宣言されました。今で言えば、地震が起こったり、津波が来たら、町ごとにサイレンが鳴るでしょう。それを聞けば、警戒心を持って、何か集中する思いが生じるでしょう。それゆえ、その日にはどんな労働も禁止されて、ただ神様のみことばに集中するようにされました。そして、10日後、贖罪の日がやってきます。ですから、ラッパを吹く意味は、靈的な意味で説明するなら、この贖罪の日は、大祭司が1年にた一度、この時だけ、至聖所に入ることができる日でした。そして、本人をはじめとして、イスラエルのすべての民の罪が赦される日でした。その次に、最後の仮庵の祭り、収穫祭は、1年の最後の農作業で取り入れた収穫を神様にささげる日でした。そして、残りは集めて倉庫に収めるようになりました。

これが聖書の背景で、背景となる内容ですが、これを靈的な意味で新約的な意味で解釈します。旧約聖書と新約聖書に分けて、それが意味することが、どのように靈的に成就されて、私たちが覚えるべきかを見なければならないでしょう。

	ユダヤ暦	太陽暦	背景	靈的意味
1. 過越の祭り	過ぎ越し 過越祭	1/4	子羊の血、解放	十字架
2. 種なしパンの祭り		1/15-21	苦難、迅速	お墓
3. 戰り入れの祭り 初穂の祭り		1/16	収穫の初穂	復活の初穂
4. 7週の祭り 五旬節	五旬節	3/6	5月 春始まり	聖靈降臨
5. ラッパの祭り	かりいおきい 仮庵祭	7/1-2	角笛、宣布	再臨
6. 贖罪の日		7/10	赦し	さばき
7. 収穫祭 仮庵の祭り		7/15-21	最後の収穫	天の御国

過越の祭りは、ただ子羊の血、それはイエス・キリストの血でしょう。十字架を意味することです。エジプトまたは、バビロンが、この世を意味します。この世は、神様を離れた、罪があふれている世界です。そこに住んでいる人は、みんな罪人です。ただイエス・キリストの十字架の血によって解放されて、赦されることができるのです。このエジプト、世の中から解放されることがあります。

種なしパンの祭りは、十字架にかかり死なれ、3日間、墓に下されたでしょう。そして、3日目になる日、復活されました。それゆえ、この初穂の祭りは、復活を意味します。イエス様は復活の初穂となられたと聖書が話しています。

そして、50日が過ぎて、イエス様が復活され、40日間、弟子たちとオリーブ山で神の国について語られたでしょう。そして、昇天されて、弟子が10日間祈って、50日目になったとき、2章1節を見れば、「五旬節の日になって」となっています。そのとき、聖靈が臨む事件が起こりました。それゆえ、この7週の祭り、五旬節は聖靈降臨を意味するのです。イエス様が、「わたしが行けば、もう一人の助け主をあなたがたに送る」と言われたでしょう。聖靈が臨む事件です。

その後に秋になって、このラッパの祭りは、イエス様の再臨を意味します。I テサロニケ4章16節を見れば、「号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身（イエス様）が天から下って来られます」と記録されています。

それから贖罪の日、これは本当のさばきの日が臨むことを言うのです。救われた私たちはさばかれて滅びることはありません。しかし、救われていない者は、さばきの後に、永遠の死の中に入るようになります。それが最後になって、最後の戦り入れ、仮庵の祭りの時には、残った神様のすべての民を天国に導き入れるようになります。このように、靈的な意味を見るすることができます。

では、すると、これが今日の私たちには、どんな意味で私たちが聞いて守らなければならないのでしょうか。私たちは、どんな意味で、このような祭りを受け止めるべきなのでしょうか。

1. 過越の祭り	ユダヤ暦	太陽暦	背景	靈的意味	私たちには？
2. 種なしパンの祭り	過越祭	1/4	3-4月 春	子羊の血、解放	イエス・キリスト（使1:1）
3. 戻り入れの祭り 初穂の祭り		1/15-21		苦難、迅速	
4. 7週の祭り 五旬節		1/16		収穫の初穂	
5. ラツバの祭り	五旬節	3/6	5-6月 春終わり、夏始まり	50日	聖霊満たし（使1:8）
6. 賖罪の日	仮庵祭	7/1-2	9-10月 秋	角笛、宣布	神の国（使1:3 2:～）
7. 収穫祭 仮庵の祭り		7/10		赦し	
		7/15-21		最後の収穫	

上の三つの祭り、すなわち過越祭は、すなわち、イエスがキリストだということで結論が出ています。その方が十字架を通してキリストの働きを完成されて、すべてを解決されました。イエスがキリストのことを成し遂げられた。使徒の働き1章1節でしょう。

さあ、その次に、7週の祭りは、使徒の働き1章8節、聖霊の満たしを意味します。ひとつの聖霊の中にいる者です。（前にされた働き人のメッセージでありました）それゆえ、聖霊の満たしを通して、各自に与えられたその役割と働きを神様のみここに従ってすれば良いのです。事実は、私たちがするのではなく、聖霊がなさることでしょう。伝道や宣教は、皆さんがするのではなく、聖霊が皆さんを通してなさることです。

この残りの仮庵の祭り、収穫祭は、神の国を意味することです。使徒の働き1章3節には、神の国のこと語られたとなっていますが、実際に神の国が繰り広げられたのではありません。2章1節から五旬節に聖霊が臨まれることによって、そのときから聖霊に満たされた者を通して、神の国が拡張されて行くようになったのです。

ですから、この三つの祭りは、キリスト、聖霊の満たし、神の国を意味することです。実際に、私たちがキリストの中で、聖霊の導きによって、神様が働くだけ、神の国を味わって行けば良いのです。私が主役になって、私が契約を成し遂げるのではありません。キリスト、神の国、聖霊の満たしを私がどのようにして味わって、私がそれを思い通りにどのようにしようかと間違った考えを持っている者のゆえに、この祭りも誤解されているのです。それでは、今日この祭りを私たちは守らなければなりませんか、守らないで良いのでしょうか。守っても良くて、守らなくても良いのです。これを必ず守らなければならぬ、違う守らなくても良いというのは、すでにこの祭りを、道徳、倫理的な観点だけで見ているからです。

パウロがそれゆえ、それについて、コロサイ人への手紙で、このように記録しました。コロサイ2章16節17節です。
「こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは祭りや新月や安息日のことで、だれかがあなたがたを批判することがあるかもしれません。これらは、来たるべきものの影であって、本体はキリストにあります。」

すべての祭りは、イエス・キリストの模型、影だったということです。これを守らなければならぬ、守らなくても良いというのは、イエス・キリストの十字架の死を無視していることだと言います。それでも、今日も、これをみな私たちが守って記念しなければならないのではないかと言うことは、そういう祭りを守る行為を通して、あいかわらず、私自身の価値を表わそうと思っているからです。それが、すなわち、アダムの罪の属性です。パリサイ人が熱心に守ったでしょう。イエス様は、彼らに向かって、まむしの子孫だと非難されました。また、パウロが伝道旅行しながら行く至る所を追いかけてきたユダヤ人がいたのですが、彼らは、また何と言ったかというと、割礼を行ってこそ救われると言ったのです。

おこな まつ まも りっぽう まも から ひつよう けつきょく わたし ぎ あら 行い、祭りを守る、律法を守る、そういうことが必ず必要というのは、結局、私の義を表すことなのです。それゆえ、
きょう じじつ せいしょ はな おこな まつ ほか わたし おお まつ まも 今日も事実には、聖書で話しているイスラエルが行う7つの祭りの他に、私たちはより多くの祭りを守っています。た
とえば、四旬節。四旬節の最後の一週間は受難週として、特に守ります。そして、復活祭（イースター）、収穫感謝祭も
あり、クリスマスもあり、このような祭りが、今日の私たちの教会で特別献金をしたり、行事も行ったりするでしょう。
じじつ ひつよう なに つく まつ きょう わたし きょうかい とき まつ ふつかつさい しうかくかんしやさい 事実は、そのようなことは必要ではありません。何かを作つてすることは、私たちの教会が、この程度はできる
わたし しんと ていど にんげんちゅうしん まつ かさ こうい す あいだ まいにち ねん にち と、私たちの信徒がその程度はできるという、人間中心のものなどを積み重ねる行為に過ぎないということです。その
ようなことは、実際にはイエス様が来られて、すべて終わつたのです。守るなら、皆さん生きている間、毎日1年360日
まいにち まも よ じっさい まいにち まつ すく めぐ かんしゃ せいいれい わたし いましんでん 毎日を守れば良いのです。実際に、毎日、キリストによる救いの恵みに感謝すべきでしょう。聖霊が、私を今神殿として
きてくださったことに毎日感謝します。この地で生きているのですが、神の国を生きているので、感謝すべきでしょう。
じじつ はんたい かんが まいにちまも おぼ とき さだ ひ い み 事実、反対に考えれば、毎日守ることができなくて、覚えることができないから、特に定めた日にでもしなさいという意味
まも で守っているのではないでしょうか。結論で話すのは、守らなければならない守らなくても良いということでなく、その
ような祭りがあつても、なくても関係なく、この地に来られたイエス様が、なぜ来られたのか、来られて何をなされたのか、そのなされたことが、私とどんな関係があるのか、それを考えなければならないということです。そして、私が本当
に救われて神の子どもであることが間違いないなら、どのように、私のような者が救われることができたのかに感謝しな
がら、その恵みがあふれて、また、私を通して、また他の人々にこの福音が流れることを祈るように願います。
みつ まつ 三つの祭りについてはここまでです。